

4 まとめ

本調査は、本市の自然環境を適切に保全・再生していくために、特に生物多様性の観点からの現状把握と評価についての基礎的な情報を整備する目的で、行政と市民、さらに専門家が協働する形で行われました。ここでは、その成果と、今後の活用についての要点をまとめます。

(1) できあがった2つの「ものさし」

①自然環境評価マップ

この調査では、樹林・草地・水辺・海岸のそれぞれの環境を代表する種を指標に選んで分布調査を行いました。その分布状況を地図に示し、一定の方法で評価することで、生物多様性という観点に立った場合に、どの地域の重要度が高いかを示す地図である「自然環境評価マップ」が作られました。これは、地域を単位として自然環境の相対的な重要度をはかる「ものさし」となるものです。

自然環境評価マップの作成によって、市域の北部と南部を比較すると、生物多様性の観点から評価した時には、北部の重要性がより高いことが分かりました。また、樹林・草地・水辺の指標種のどれも高い密度で出現する地域があることが明らかになりました。それは谷戸と呼ばれる環境で、多くの動植物が生育・生息し、今後、本市の自然環境の保全・再生を図っていく上で、もっとも注目すべき環境であり、貴重な自然として最優先で保全すべき場所であると考えられます。

農地として利用されている場所でも、特に水田とその周辺環境では水辺の指標種が多く記録され、水田という環境が生産の場であるのみならず、生物の生育・生息環境として重要であることが示されました。

地区単位の評価が重要であるだけでなく、指標種が集中して記録された場所はその保全に留意する必要があります。本概要報告に示した具体的な場所は数例に過ぎませんが、同様な地図を参照することで重要度の高い場所を抽出することが必要とされます。

②レッドデータリスト

市内における動植物の過去の分布記録を整理することの中から、市域で絶滅した種およびそのおそれが大きい種をリストアップしました。

その結果、脊椎動物では絶滅種6種、絶滅危惧種46種、準絶滅危惧種38種、無脊椎動物では絶滅種31種、絶滅危惧種29種、準絶滅危惧種56種、植物では絶滅種48種、絶滅危惧種62種、準絶滅危惧種73種がリストアップされました。

これらの動植物は、その生育・生息地が茅ヶ崎の自然の多様性を保全していく上で、重要であることを示す種と考えることができます。つまり、生物の種という単位から見た重要性を測る「ものさし」となるものです。

③2つの「ものさし」の尊重と活用

こうしてできあがった2つの評価基準は、今後、本市の自然環境を適切に保全・再生していく上で、基本的な「ものさし」となるものです。これを尊重し、活用をはかっていくことは、行政、市民、事業者に共通した理念として確立されるべきことです。



(2) 2つのものさしの施策への活用

①自然環境評価マップの地域指定への活用

本市における市政の基本方針である「茅ヶ崎市新総合計画後期基本計画（以下「総合計画」という。）」には、自然と都市機能が調和したうるおいのあるまちとして、人と自然が共生するゆとりとやすらぎのあるまちづくり、貴重な里山の自然環境を保全し、自然と人がふれあう憩いの場の創出が目標として掲げられています。そのための具体的な事業としては、自然環境保全地域、特別緑地保全地区、風致地区の指定などがあげられています。環境基本計画でも、「アメニティ豊かな都市空間の整備」において、法や条例に基づく保全緑地の指定が挙げられています。自然環境保全地区は自然環境保全法、特別緑地保全地区は都市緑地法、風致地区は都市計画法に基づいて指定されるものですが、こうした地区指定を進めていく上で、今回作成された自然環境評価マップが活用され、具体的な指定候補地の選定に生かされていく必要があります。また、都市マスタープラン、緑の基本計画といった、土地利用や緑地保全の方向性を示す計画が改訂の時期を迎えるほか、景観法に基づく景観区域の指定等も今後検討される可能性があり、そのような場面において、自然環境評価マップを活用していく必要があります。

②自然環境評価マップの水循環水環境基本計画等への反映

総合計画において、河川については、川辺の自然と人がふれあえる親しみやすい水辺空間の創造が目標として挙げられており、おもな事業として水辺環境の関連計画の策定や、各河川の改修整備が挙げられています。環境基本計画でも、「川の自然の保全・活用」において、駒寄川の生態系に配慮した整備、県管理河川への協力要請、千ノ川の水質浄化、相模川の水辺環境保全等が挙げられています。そうした事業を行っていく上では、自然環境評価マップを活用し、保全を主たる考え方として整備していくべき場所を抽出して計画に反映することが求められます。

③自然環境評価マップの緑の基本計画等への活用

総合計画において、都市緑化については、公共施設、民有地などの緑化を進め、緑化の普及・啓発に努め、緑豊かなまちをつくることが目標として掲げられ、保存樹林の充実、工場などの緑化推進が事業として挙げられています。環境基本計画でも、「アメニティ豊かな都市空間の整備」において、施設緑地の確保、各種緑化対策の推進、点在する緑の連続性確保や新たな生物の生育・生息空間の創出等が挙げられています。こうした事業を展開するに当たっては、自然環境評価マップの活用によって、重要な樹林の抽出とその保存樹林への指定の推進、動植物の生育・生息にふさわしい環境のネットワーク形成につながるような緑化の計画策定が求められます。

④重要度の高い地域の保全に向けて

自然環境評価マップにおいて重要度が高いと評価された地域については、重要性の周知、前述した各種の地域指定、現状を変える事業が計画された時の速やかな対応、土地の担保を含めた積極的な保全策（基金活用等）の検討など、多様な手段によって将来にわたって保全がはかられるように努力していく必要があります。

⑤レッドデータリストの活用による種の保全

レッドデータリストにおいて絶滅危惧種、準絶滅危惧種に位置付けられた種の生育・生息場所は、前項と同様に、その保全について配慮する必要があります。また、猛禽類などについては、種を対象とした保全手法について検討を進める必要があります。



(3) 「ものさし」を運用する仕組み

「自然環境評価マップ」と「レッドデータリスト」は、今後本市の環境行政において、さまざまな局面で活用されていくことが期待されます。将来的に長期にわたってこれらが活用されていくための、体制を整えるべき点として、次の3点を挙げるすることができます。

①データの管理保管

本報告書に収録されている文章や図は、調査結果のごく一部にすぎません。その裏付けとして、評価を行うもととなった個々の種についての分布情報など、膨大なデータが存在しています。今後の自然環境評価マップの活用に当たっては、その基礎データを含めた管理保管体制を確立することが重要です。特に電子データの場合、その保存場所が不明確になってしまったり、機器の故障、媒体の劣化によって内容が失われたりする危険が常に伴っています。一方で、不用意な扱いによってレッドデータ種に関するデータが流失するおそれもあるため、セキュリティーの対策も必要となります。

こうした問題点を解決するには、調査結果としてまとまったデータについて、その保管と閲覧管理についてのルール作りが必要です。

②モニタリングと評価の更新

今回、作成された自然環境評価マップは、今世紀初頭における本市の自然環境についての実態をよく反映したものとみることができます。しかし、本調査期間中にも貴重な水辺や樹林が消失したように、都市化の進行などさまざまな要因による自然環境の変化は引き続き起こっており、評価マップについても最新の情報に基づいて適宜改訂されていくことが望ましいといえます。

そのためには、指標種として選ばれた種やレッドデータ種の分布動向についての追跡とともに、そうした最新の情報に基づいた定期的なマップの更新が必要になります。

③自然環境評価マップの活用と維持管理体制

自然環境評価マップが、施策上の地域指定や計画策定などに適切に反映されていくためには、報告書を読覧するだけでなく、そこに記載されていない基礎情報や現地の状況も含めて、総合的に判断、適用されなければなりません。また、指標種の動向については、継続的にモニタリングを行う必要があります。こうしたことは、日常的に野外で活動し、現地を熟知している市民および市民団体、それぞれの動植物についての専門家などの参加協力なしには不可能なことと言えるでしょう。そうしたメンバーを含めた（仮称）生物分布データ管理委員会や（仮称）自然環境評価マップ検討会等を設け、保管管理閲覧の体制とルール作り、実効性のある施策への活用についての研究、モニタリングとマップの更新についての検討などを行っていく必要があります。

■ 調査協力者名簿一覧

ワーキングメンバー（50音順,敬称略）

座長：浜口哲一

副座長：小池文人

メンバー：青木雄司、新井進、池田尚子、岩本和代、小口岳史、亀山政博、河村まき子、岸しげみ、河野正子、齋木操、齋藤溢子、齋藤和子、齋藤和久、佐藤建三、佐々木晴修、鳶田靖忠、杉村一憲、高橋久雄、田部武久、田部許子、丹沢久子、土橋梢、永井紀行、野田晴美、野中聖子、埜村恵美子、樋口公平、三輪徳子、村中恵子、森上義孝、安井利子、柳川美保子、山川美都子、丸山一子

指標種調査専門家チームメンバー（50音順,敬称略）

〔植物チーム〕

リーダー：三輪徳子

サブリーダー：岩本和代、埜村恵美子

メンバー：浅野牧子、天野謹、池田尚子、石井準子、奥野攻、河野正子、齋木英一、齋木操、齋藤溢子、齋藤和子、田部武久、田部許子、津田久子、土田厚子、土橋梢、中原和男、野田瑞江、野津信子、野中聖子、早川典子、安井利子、山崎孝弥、山本日出子、吉田弥生、吉田禮、和田良子

〔ほ乳類チーム〕

リーダー：青木雄司

サブリーダー：柳川美保子

〔鳥類チーム〕

リーダー：樋口公平

サブリーダー：河村まき子、鳶田靖忠、白田仁志、新倉美佐雄

メンバー：岩田勝己、植田武志、蔵前かつえ、河野正子、佐藤幸子、佐藤成美、白田則子、水越克博、目黒啓子、横山勝子

〔両生・は虫類チーム〕

リーダー：丸山一子

サブリーダー：河野正子、野田晴美

メンバー：小浜ミサ子、長井祐樹、野中聖美、松井宏明、安井利子、休場聖美

〔魚類チーム〕

リーダー：森上義孝

サブリーダー：齋藤和久

メンバー：亀山政博、河村まき子、木村喜芳、木村聡、蔵前かつえ、佐藤建三、鈴木国臣、永井紀行、平岩宏司、目黒啓子

〔昆虫類チーム〕

リーダー：小口岳史

サブリーダー：岸しげみ、山川美都子

身近な生き物マップ作成のための市民モニターによる指標種調査や、生き物なんでも情報などで、多くの市民のみなさんにご協力いただきました。

編集協力：岸 一弘

イラスト：森上義孝

写真提供：野中聖子